

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	徳島文理大学
設置者名	学校法人村崎学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
人間生活学部	人間生活学科				14	14	13	
	食物栄養学科				14	14	13	
	児童学科				14	14	13	
	メディアデザイン学科				14	14	13	
	建築デザイン学科				14	14	13	
	心理学科				14	14	13	
音楽学部	音楽学科				14	14	13	
薬学部	薬学科				20	20	19	
文学部	日本文学科				14	14	13	
	英語英米文化学科				14	14	13	
	文化財学科				14	14	13	
理工学部	機械創造工学科				14	14	13	
	電子情報工学科				14	14	13	
	ナノ物質工学科				14	14	13	
総合政策学部	総合政策学科				14	14	13	

香川薬学部	薬学科				19	19	19	
保健福祉学部	人間福祉学科				14	14	13	
	看護学科				14	14	13	
	理学療法学科				14	14	13	
	診療放射線学科				16	16	13	
	臨床工学科				13	13	13	
	口腔保健学科				14	14	13	
	(備考)							

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024891/41.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	徳島文理大学
設置者名	学校法人村崎学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024792/15.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	無職	2024. 4. 8 ～2026. 4. 7	財務担当
非常勤	無職	2024. 4. 8 ～2026. 4. 7	財務担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	徳島文理大学
設置者名	学校法人村崎学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。											
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)											
<p>開講する全ての授業科目において、下記の内容でシラバスを作成し、本学ホームページで公表している。年度の授業の計画は、年度初めに学内システムおよび本学ホームページに掲載している。</p> <p>【作成過程】 シラバス作成要領に沿って、授業担当教員が作成している。</p> <p>【作成項目】 科目名、担当教員名、単位、科目群、必修・選択、開講期、対象年次、授業概要、到達目標、授業計画、授業形態、授業時間外学習、評価方法、教科書、参考図書、備考(オフィスアワー、実務経験、科目ナンバー)</p> <p>【作業日程】</p> <table border="0"> <tr> <td>1月29日(月)～2月9日(金)</td> <td>2024年度Webシラバスの修正・新規登録等、入力作業</td> </tr> <tr> <td>2月13日(火)～2月26日(月)</td> <td>教務部長からシラバスチェック依頼、各学科におけるチェック</td> </tr> <tr> <td>2月27日(火)～3月4日(月)</td> <td>学科長から教員へ修正依頼・各教員による修正と報告</td> </tr> <tr> <td>3月5日(火)～3月11日(月)</td> <td>学科長による確認、チェック表と完了報告書の提出</td> </tr> <tr> <td>3月18日(月)～</td> <td>次年度時間割発表 学生閲覧開始</td> </tr> </table>		1月29日(月)～2月9日(金)	2024年度Webシラバスの修正・新規登録等、入力作業	2月13日(火)～2月26日(月)	教務部長からシラバスチェック依頼、各学科におけるチェック	2月27日(火)～3月4日(月)	学科長から教員へ修正依頼・各教員による修正と報告	3月5日(火)～3月11日(月)	学科長による確認、チェック表と完了報告書の提出	3月18日(月)～	次年度時間割発表 学生閲覧開始
1月29日(月)～2月9日(金)	2024年度Webシラバスの修正・新規登録等、入力作業										
2月13日(火)～2月26日(月)	教務部長からシラバスチェック依頼、各学科におけるチェック										
2月27日(火)～3月4日(月)	学科長から教員へ修正依頼・各教員による修正と報告										
3月5日(火)～3月11日(月)	学科長による確認、チェック表と完了報告書の提出										
3月18日(月)～	次年度時間割発表 学生閲覧開始										
授業計画書の公表方法	https://ss.pt.bunri-u.ac.jp/syllabus/										
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。											
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)											
<p>年度当初に示す授業計画(シラバス)に、筆記試験や学習態度、実技等の学修成果の評価方法とそれぞれの評価割合について明示している。さらに、試験・レポート等の評価に対するフィードバックの方法も示している。</p> <p>成績評価および単位認定の基準については、学則および履修要綱に定め、入学時に配布するキャンパスガイドおよび学内システムで学生に示し、適正に評価・認定している。</p>											

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【成績評価とグレードポイント】 $GP = (\text{各科目の成績評価の得点} - 55) / 10$

評 価	得点	GP	GPに対応した評価基準
秀	90～100	3.5～4.5	到達目標の全ての観点を十分に達成、もしくはそれを超えて達成しており、極めて優れている。
優	80～89	2.5～3.4	到達目標の全ての観点を十分に達成しており、優れている。
良	70～79	1.5～2.4	到達目標の全ての観点をおおむね達成しており、良好である。
可	60～69	0.5～1.4	到達目標のいくつかを最低限達成しているが、不十分な点も見受けられる。
不認定/再試	0～59	0	到達目標をほとんど達成していない。
追試/保留/通年科目の途中評価	対象外		

【GPに対応した評価割合】

GP	4.5～3.5	3.4～2.5	2.4～1.5	1.4～0.5	0
成績評価割合	5～20%	15～20%	30～40%	10～30%	特に定めない

【f-GPAの算出式】 算入科目は卒業要件の対象科目

当期 f-GPA = $\{(\text{当該学期に履修登録した科目のGP}) \times (\text{当該科目の単位数})\}$ の合計 / 当該学期に履修登録した科目の総単位数

年間 f-GPA = $\{(\text{当該年度に履修登録した科目のGP}) \times (\text{当該科目の単位数})\}$ の合計 / 当該年度に履修登録した科目の総単位数

累積 f-GPA = $\{(\text{当該学期までに履修登録した科目のGP}) \times (\text{当該科目の単位数})\}$ の合計 / 当該学期までに履修登録した科目の総単位数

【実施状況】

各学期末に卒業要件の科目を対象とし、上記方法により f-GPA を算出している。成績分布の図表は、各学期、学科学年ごとに作成する。

客観的な指標の算出方法の公表方法

https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024914/50.pdf
 キャンパスガイドに記載し、入学時に全学生に配布
 成績通知書発送時に説明文書を送付
 学内システムに説明文書を掲載

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

大学の教育理念に基づき、各学部・各学科において、どのような資質・能力を身につけた学生に卒業を認定し、学位を授与するかについてディプロマ・ポリシーを定め、「知識・理解」「思考・判断」「興味・関心・態度」「技能・表現」の4つの観点から具体的に示して公表している。

加えて、卒業に必要な単位・年限を明示するとともに、卒業に係る学長と教授会の役割についても定めている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009287/univ-dp.pdf

https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024914/50.pdf

キャンパスガイドに記載し、入学時に全学生に配布

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	徳島文理大学
設置者名	学校法人村崎学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00042505/2023kessansyo.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00042505/2023kessansyo.pdf
財産目録	https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00042499/2023zaisanmokuroku.pdf
事業報告書	https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00036436/gijyo.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00042482/2023kanjikansahoukokusyo.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00013567/r3jiko.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00013529/bunri_univ291.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人間生活学部
教育研究上の目的 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024808/21.pdf , キャンパス内 入学時配布)
(概要) 人間生活学部は、最先端の知識・技能を教授研究し、かつ人間と生活環境との共生を総合的・学際的に追求して、より豊かで幸せな人間生活の実現のために、広く社会貢献をなし得る人材の養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009287/univ-dp.pdf , キャンパス内 入学時配布)
(概要) 多様な 6 学科から構成されており、人々の生活に欠かせない食・衣・住に加えて、教育、心理、さらには高度化する情報化社会などについて総合的かつ専門的に学ぶとともに、現代社会が抱える様々な課題に柔軟に対応し、21 世紀の豊かな生活を切り開いていく能力・資格を身に付けることを目指します。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009270/univ-cp.pdf , キャンパス内 入学時配布)
(概要) 6 学科から構成されている。一般総合科目、専門的基礎分野の開講を出発点として、教育実習等の関連性にも配慮しつつ、順次高度な専門分野を加えるように体系的に編成している。なお、講義科目や実験・実習科目等の配分には細かい注意を払っている。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009263/univ-ap.pdf , キャンパス内 入学時配布, 入試要項)
(概要) 6 学科それぞれで、人間生活に欠かせない学問分野を専門的に学び、豊かな生活が創造できる実践的な専門家(管理栄養士、幼・小・中・高教員、保育士、情報処理士、建築士、認定心理士など)を養成します。 1. 学部の求める人物像 (1) 各学科に必要な基礎知識を有し、それを生活や勉学で生じる疑問や課題の解決に応用することに興味・関心のある人を求めます。 (2) 継続的な努力のできる強い意志をもつ人を求めます。 2. 入学試験の基本方針 教科の履修と達成度を直接測る一般選抜に加えて、求める人物像に見合う意欲のある多彩な人材を受け入れるために総合型選抜及び学校推薦型選抜を実施しています。 一般選抜では各教科の基礎が身に付いていることを評価し、総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価します。
学部等名 音楽学部
教育研究上の目的 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024808/21.pdf , キャンパス内 入学時配布)

<p>(概要) 音楽学部は、音楽に関するすぐれた研究者及び専門的職業人等を養成し、社会の要請に応えられる人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009287/univ-dp.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>
<p>(概要) 本学部の教育課程において、厳格な成績評価のもと所定の単位を修得し、「自立協同」の精神を基本に、次のような能力を身につけた学生に学位を授与します。 〔ピアノコース・声楽コース・管弦打楽器コース・音楽クリエイター&アーティストコース〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽の歴史、理論、様式、体系を理解し、身につけている。【知識・理解】 2. 上記 1 に則した演奏能力、創作能力を身につけ、自らの演奏や作品を確立することができる。【思考・判断】【技能・表現】 3. 上記 2 を基盤とし、合奏や合唱などのアンサンブルを通して、協調性、社会性を身につけている。【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】 4. 専門分野のみならず幅広い教養を身に付け、演奏家、教育者など様々な音楽分野で活躍する能力を身につけている。【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】 <p>〔音楽療法コース〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い教養を身につけ、芸術と科学の融合である音楽療法について理解し、人々の健康と幸せのために働くことができる。【知識・理解】【関心・意欲・態度】 2. 世界基準 (Global) の音楽療法を学び、地域 (Local) のヘルスケアニーズに応えられる“グローバル人材”としての能力を有する。【知識・理解】【技能・表現】 3. 音楽療法の独自性とその効果を生かしつつ、他の専門職と協働する能力を有する。【技能・表現】【関心・意欲・態度】 4. 自らの関心や提議された問題について探索し、知識を得ること、またセラピーの実践を積み重ねることにより、学問において、また人間的に、生涯にわたって成長し続ける基盤を形成する。【思考・判断】【関心・意欲・態度】
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009270/univ-cp.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>
<p>(概要) 音楽学部は、ディプロマ・ポリシーを実現するために、下記の教育を実施する。 〔ピアノ・声楽・管弦打楽器・音楽クリエイター&アーティストの各コース〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1 年次は、音楽の学修方法を基礎から学ぶと同時に、音楽に対する学修意欲を高めるため、「基礎ゼミナール」と基礎的な内容の「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」を配置する。また、幅広い知識を身につけるための一般総合科目を配置する。 2. 一部の演習系科目と実技系科目においては、習熟度別のクラス編成を行い、一人ひとりの個性を重視する体制を構築している。 3. 全学年を通して、「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」において、基礎的内容から、より高度で専門的な内容の科目まで、順次配置する。 4. 高等学校教員免許・中学校教員免許 (1 種) を取得するため、また音楽指導者を目指すための科目として、全学年を通し、「教育系科目」を順次配置する。 5. 音楽療法士 (1 種・2 種) を取得するための科目として、全学年を通し、「音楽療法系科目」を配置する。 6. 4 年次修了時には、卒業研究として専攻実技の卒業試験を実施し、4 年間の研究成果を評価する。 7. 「卒業演奏会」を開催し、卒業試験における成績優秀者には、発表する機会を提供する。 <p>〔音楽療法コース〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学年を通して、全国音楽療法士養成協議会の定める「音楽療法士 (1 種) 養成の教育課程」にしたがい、音楽、音楽療法、音楽療法関連の各分野を学ぶための科目を順次配

<p>置する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1年次は、幅広い教養を身につけるための「一般総合科目」と、音楽療法士に必要な演奏能力を養うために、基礎的な内容の「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」を配置する。そして音楽療法を概観する「音楽療法概論」、「音楽療法演習」を配置する。 とくに1年次後期には、2年次より開始される実習に備え、「音楽療法概論Ⅱ」として、アメリカ音楽療法協会発行の臨床実施基準（AMTA Standards of Clinical Practice）にもとづき、1) 紹介と受け入れ、2) アセスメント、3) 治療計画、4) 実施、5) ドキュメンテーション、6) 終結、という実践のプロセスを徹底して学ぶ科目を設ける。 2年次の「音楽療法実習」では、「音楽療法総合演習」、「事前指導」を配置し、教員及び学生間による援助を大きく受けながら、地域の病院、福祉施設等の高齢者のニーズを特定し、グループ音楽療法サービスを実践する機会を提供する。 3年次の「音楽療法実習」では、「事前指導」を配置し、教員及び学生間による援助を受けながら、地域の病院、福祉施設等の障がい者のニーズを特定し、音楽療法サービスを実践する機会を提供する。 4年次の「音楽療法実習」では、少人数の学生グループが、自立して、地域の病院、福祉施設等のクライアントのニーズを特定し、音楽療法サービスを実践する機会を提供する。実習での教員の援助は最小限にとどめられるが、「音楽療法総合演習」において実習の内容を取り扱い、より高度なメソッド、テクニックの利用についてアドバイスを与えることによって、自身のセラピーがさらに豊かなものになるようにしている。 4年次の「音楽療法実習」において、地域で自身がおこなったセラピーについてテーマを設定し、プレゼンテーションをおこなうことをもって「卒業研究」とする。これにより、自らの探求する力、また音楽療法を他者に伝え、説明する力を養う機会を創出する。
--

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009263/univ-ap.pdf, キャンパス内 入学時配布, 入試要項)</p>
--

<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学部の求める人物像 <ol style="list-style-type: none"> (1) 音楽あるいは音楽療法に対する強い意欲と情熱を有する人 (2) 音楽あるいは音楽療法を深く学び、社会に貢献したい人 2. 高等学校等で修得が望ましい内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 音楽の基礎的知識や能力を身に付けていること。 (2) 部活動やボランティア活動に参加するなど、音楽活動に積極的に取り組む姿勢を身に付けていること。 (3) 自分の考えを他者に伝える基本的な表現力を備えていること。 3. 入学試験の基本方針 <p>さまざまな角度から受験者の資質、能力や将来性を把握するために、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。特に実技、面接などでは、個人のもっている能力の可能性を評価します。</p>

<p>学部等名 薬学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024808/21.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>
<p>(概要) 薬学部は、薬学に関して深い知識・技能・態度をもつ有能な人材を養成するとともに、最高最新の科学を教授研究することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p>

(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009287/univ-dp.pdf,
キャンパス内 入学時配布)

(概要)

「自立協同」の精神のもと、科学的根拠に基づいた創造的思考により人類社会の抱える様々な薬学的課題の解決に取り組み、医療・福祉・公衆衛生を实践できる能力を有する人材を育成する。定められた教育課程を修めて所定の単位を修得し、下記の基本的な資質・能力を身につけた者に学士（薬学）を授与する。

1. プロフェッショナリズム

- 1) 薬剤師として必要な豊かな人間性と倫理観、医療・福祉・公衆衛生に貢献する精神を備えている。
- 2) 薬剤師に関わる法規を理解し、職務を果たすための責任感を備えている。

2. 専門的知識

- 1) 物理・化学・生物系に関する基礎薬学の知識と技術を修得している。
- 2) 基礎薬学の知識を基盤とした薬理・病態、医薬品情報、薬物動態・製剤に関する医療薬学の知識と技術を修得している。
- 3) 基礎薬学と医療薬学の知識を基盤とした衛生・公衆衛生に関する衛生薬学の知識と技術を修得している。
- 4) 基礎薬学、医療薬学、衛生薬学の知識を基盤とした医薬品研究開発、先端医療薬学、漢方・セルフケアのいずれかに関する専門知識と技術を修得している。

3. 情報・科学技術活用能力

- 1) 保健医療に関する統計情報・データから医療における課題を的確に見出し、その対応策を立案することができる。
- 2) 医療や科学に関するデータベースから医薬品情報や薬学的課題に関する文献情報を収集・解析し、その結果を適切に活用することができる。

4. コミュニケーション・多職種連携能力

- 1) 患者や医療人の言動をその文脈を踏まえて理解ことができ、共感的なコミュニケーションをとることができる。
- 2) 地域医療やチーム医療に関連する多様な職種と信頼関係を構築し、連携・協同して医療を实践する意欲を備えている。

5. 科学的探究力

- 1) 最先端の薬学に関する学術論文を読解し、その内容について評価することができる。
- 2) 薬学的課題の解決に向けて、科学的根拠に基づいた創造的思考により課題に取り組む探究心（研究マインド）を備えている。
- 3) 自ら行った研究成果を解析・理解するとともに、学術的な報告・発表とこれに基づいた討論を行うことができる。
- 4) 最先端の薬学・医療を生涯にわたって学修することの重要性について説明できる。

6. 社会貢献力

- 1) 患者や生活者の身体的・社会的背景を総合的に把握して、医療・福祉・公衆衛生を实践する意欲を備えている。
- 2) 社会における医療のあり方について、地域社会から国際社会にわたる幅広い視野に立って理解することができる。
- 3) 社会における環境・衛生上の問題について、科学的知見に基づいた解決策を立案することができる。

7. 薬物治療実践能力

- 1) 医療薬学を基盤とした薬物治療を实践するために必要な知識を修得している。
- 2) 薬物治療における具体的な症例や事例の問題点に対し、その改善や解決策を立案することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009270/univ-cp.pdf,
キャンパス内 入学時配布)

(概要)

ディプロマ・ポリシーを達成するため、体系的なカリキュラムを1年次から6年次にわたって段階的に構築・実施する。カリキュラム実施方針ならびに学修成果の評価方法を以下に示す。

1. プロフェッショナルリズム

薬剤師として必要な人間性と倫理観を醸成するための科目を1年次から各学年にわたり受講する。幅広い視野で判断ができる能力を身につけるため、1年次に医療・福祉・公衆衛生・製薬に関わる施設・企業を訪問する、早期体験学習を受講する。また一般教養教育における人文科学・社会科学系の授業科目を履修する。2年次と4年次に医療倫理と法規・規範について学修する授業科目をそれぞれ受講する。さらに4年次開講科目にて参加・実践型の実務実習前教育を学修した後、5年次の実務実習において人間性豊かな医療を実践する態度を体系的に身につける。また3～6年次の卒業研究活動を通じて薬剤師として必要な人間性を育むとともに、医療や研究に係る倫理観を身につける。

【学修成果の評価方法】

「知識・理解」に関する学修成果は筆記試験や口頭試問、レポート等で評価する。「関心・意欲・態度」に関する学修成果は、レポートやプレゼンテーション、SGD、PBL等を、ルーブリックを用いて評価する。

2. 専門的知識

医薬品に関する科学的知識について体系的に学修するため、基礎薬学、医療薬学、衛生薬学の知識と技術を修得する講義・演習・実習科目を1年次から学年進行に応じて受講する。1, 2年次では物理・化学・生物系薬学に関する科目を中心に履修する。3, 4年次では薬理・病態、医薬品情報、薬物動態・製剤、衛生・公衆衛生に関する科目を中心に受講する。また3年次より本学独自の3つのコース（医薬品研究開発、先端医療薬学、漢方・セルフケア）のいずれかを選択し、より実践的で専門性の高い知識と技術を修得する。

【学修成果の評価方法】

筆記試験や口頭試問、レポート等で評価する。また2～4年次の特別演習および6年次の総合薬学演習における試験により、その総括的な学修成果の評価を行う。

3. 情報・科学技術活用能力

情報・科学技術を医療・薬学に活用するために必要な科目を1年次から受講する。1年次では基本的な情報技術を学修する演習科目と、データサイエンスに関する基礎知識を修得する科目を履修する。3, 4年次では、保健医療における統計資料、デジタル技術やビッグデータの活用状況を把握し、その情報・科学技術を利活用して医療や公衆衛生上の課題発見・解決につなげるための学修に取り組む。5年次の実務実習では医療機関や地域における医薬品情報を活用した医薬品の適正使用について学修する。また3～6年次の卒業研究活動を通じて、科学系・医療系データベースからの情報収集・解析と活用について学修する。

【学修成果の評価方法】

「知識・理解」に関する学修成果は筆記試験や口頭試問、レポート等で評価する。「技能・思考・判断」に関する学修成果は、レポートやプレゼンテーション、SGD、PBL等を、ルーブリックを用いて評価する。

4. コミュニケーション・多職種連携能力

薬剤師として必要なコミュニケーション能力と多職種連携能力を醸成するための科目を1年次から各学年にわたり受講する。1年次は体験学習、学部間連携科目などを通して多様な背景を持つ人々と良好な人間関係を構築する。2年次からは、患者や医療従事者と適切なコミュニケーションをとれるよう、医療コミュニケーション学、チーム医療論、実務実習事前教育などの科目において参加型学修に取り組む。5年次の実務実習では患者との面談・指導の実践や、医療に関連する多職種との連携を実践する学修に取り組む。また1～3年次の薬学専門領域の各実習や3～6年次の卒業研究活動を通じて、同僚や先輩・後輩と連携・協同して実験や研究に取り組む意欲を培う。

【学修成果の評価方法】

「知識・理解」に関する学修成果は筆記試験や口頭試問，レポート等で評価する。「意欲・思考・判断」に関する学修成果は，レポートやプレゼンテーション，SGD，PBL等を，ルーブリックを用いて評価する。

5. 科学的探究力

科学的探究力と問題解決能力を身につけるための体系的なカリキュラムを1年次から6年次にわたって段階的に受講する。研究マインドの基礎を築くため，1～3年次において薬学専門領域の各実習を受講する。また低学年次より自主的に研究活動に取り組むことのできる学部内インターンシップ制度を選択・参加する。主体的な学習態度，課題発見・問題解決能力を養うため，3年次から研究室に配属して卒業研究に取り組む。卒業研究の一環として薬学に関する学術論文を読解し，その内容について紹介する。6年次の卒業研究発表会において，自ら行った研究成果について発表・討論する。また学術集会や学会などに積極的に参加し，研究成果を発表する。5年次の実務実習では卒業生や先達薬剤師とともに医療現場で活動し，医療の質的向上に貢献するため，エビデンスの再現性・信頼性・具体性を理解する。また医療人としての心構えや行動規範について学び，生涯にわたって研鑽を積み続ける意義や姿勢について学修する。

【学修成果の評価方法】

「知識・理解」に関する学修成果は筆記試験や口頭試問，レポート等で評価する。「技能・意欲・思考・判断」に関する学修成果は，レポートやプレゼンテーション，SGD，PBL等を，ルーブリックを用いて評価する。また6年次の総合薬学研究4において，その総括的な学修成果の評価を行う。

6. 社会貢献力

社会における医療の役割について理解し，総合的に患者をみる姿勢を醸成するための科目を1年次から受講する。1年次では薬剤師として必要な資質について学修する薬学概論と，医療・福祉・公衆衛生に関わる施設を訪問する早期体験学習を受講する。2～4年次では社会と薬学および臨床薬学に関する科目において，患者の身体的・社会的背景を総合的に把握して医療を実践する意欲を培う。また社会・地域における薬剤師の活動や医薬品の規制，医療マネジメント・医療安全の実践について学修する。衛生薬学に関する科目において，社会における公衆衛生，食品衛生，環境衛生上の課題発見と解決策の立案について学修する。国際的な視野を広げるため，2，3年次の英語科目において医療現場や薬学で用いられる専門英語について学修する。5年次の実務実習ではこれまで学修した知識を活用して，医療や福祉，地域社会の現場における薬剤師の役割について学修する。

【学修成果の評価方法】

「知識・理解」に関する学修成果は筆記試験や口頭試問，レポート等で評価する。「意欲・思考・判断」に関する学修成果は，レポートやプレゼンテーション，SGD，PBL等を，ルーブリックを用いて評価する。

7. 薬物治療実践能力

薬物治療を実践できる能力を身につけるため，薬物治療に必要な知識を修得する医療薬学の科目と，薬物治療の実践力を培うための臨床薬学の科目を，2年次から体系的に受講する。2～4年次における医療薬学系の科目では疾患ごとの薬物治療について学修し，薬物治療を実践するための基盤を作る。4年次の臨床薬学系の講義・演習科目において薬物治療の個別最適化について学修した後，5年次の実務実習において臨床現場における患者個々の状況を把握した薬物治療の実践について学修する。

【学修成果の評価方法】

「知識・理解」に関する学修成果は筆記試験や口頭試問，レポート等で評価する。また3，4年次の特別演習および6年次の総合薬学演習における試験により，その総括的な学修成果の評価を行う。「思考・判断」に関する学修成果は，プレゼンテーションやSGD，PBL等を，ルーブリックを用いて評価する。また6年次の実務実習事後学習において，その総括的な学修成果の評価を行う。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009263/univ-ap.pdf，

キャンパスガイド 入学時配布, 入試要項)
<p>(概要)</p> <p>1. 学部の求める人物像</p> <p>薬学部では、医療人として「くすり」の専門家を担う薬剤師を養成します。チーム医療で必要な多職種間連携を実践する人間力を育てるために、最新の薬学を勉強するとともに、豊かな教養と人間性を身に付け、地域や国際社会に貢献できる資質を備えることが重要であると考えています。そのために、密度の高い日々の学習や研究活動への参加をとおして、より深い基礎学力、研究マインド（課題発見能力と問題解決能力）、コミュニケーション能力を養成します。このような薬学部での取り組みに共感し、薬学部の勉学に取り組みたいと強い意欲をもっている人を求めます。</p> <p>2. 高等学校等で修得が望ましい内容</p> <p>(1) 薬学部での修学内容に対応可能な基礎学力を、高等学校等において修得している。</p> <p>(2) 課題や問題に対し主体的に対応できる能力をもっていること。</p> <p>(3) 豊かな人間性、協調性、コミュニケーション能力を有し、将来において医療人として活躍する明確な意欲をもっていること。</p> <p>3. 入学試験の基本方針</p> <p>さまざまな角度から受験者の資質、能力や将来性を把握するために、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。</p>
<p>学部等名 文学部</p> <p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024808/21.pdf, キャンパスガイド 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>文学部は、各時代の文学を通じ、日本文学・語学及び文化を精究し、英語を駆使できる国際人、先人が残した多様な文化遺産を現代に創造的に生かせる人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009287/univ-dp.pdf, キャンパスガイド 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>伝統文化の上に立ち、国際化の時代を生きる人間として必要な考察力を身に付け、あわせて情報化社会に適応した取捨選択能力を獲得することで、文学や文化遺産を創造的に生かす人材となることを目的とします。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009270/univ-cp.pdf, キャンパスガイド 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>文学部のディプロマ・ポリシーに基づき、自立協同の建学精神を体得した社会人として活躍するために、5つの領域の基礎科目群を履修し、基本的力量を修得するカリキュラムの編成をしている。即ち、3学科共通の専門科目として、多様な情報を比較・検討した上で自らの考えをまとめ、それを的確な日本語で表現し、情報機器を駆使して分かりやすくプレゼンテーションできる力を養成する。具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1・2年次では、日本語及び情報の基礎から応用力を体得し、併せて日本文化や欧米の歴史を学び、幅広い教養を身に付ける科目を設置している。 ・2・3年次では就職試験に役立つ基礎から応用力を身に付ける科目を設置している。
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009263/univ-ap.pdf, キャンパスガイド 入学時配布, 入試要項)</p>

<p>(概要)</p> <p>3 学科でそれぞれ、日本文化、英語圏の文化及び日本の文化遺産に関する幅広い教養と専門的な知識を身に付けた、応用力のある思考と行動ができる人材を育成します。「自立協同」の建学精神に則り、教員と学生あるいは学生同士が議論を交わし、主体的に学びを深めようと望む人を求めます。</p> <p>1. 学部の求める人物像</p> <p>(1) 感性に富み、問題意識を豊かにもつ、積極性のある人</p> <p>(2) 目標をもち、継続的な努力ができる人</p> <p>2. 入学試験の基本方針</p> <p>教科の履修と達成度を直接測る一般選抜に加えて、人物像に見合う意欲のある多彩な人を受け入れるために総合型選抜及び学校推薦型選抜を実施しています。</p> <p>一般選抜では各教科の基礎が身に付いていることを評価し、総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価します。</p>

<p>学部等名 理工学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024808/21.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>理工学部は、「創造力のあるもの創り」、「情報通信」、「環境・バイオテクノロジー」、「ナノテクノロジー・材料」、「ライフサイエンス」をキーワードとして、理学的・工学的基礎のうえに、専門的学術を教授研究し、科学技術の進歩に柔軟に適応できる能力を身につけ、豊かな社会を創造する技術者を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009287/univ-dp.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学部の教育課程を経て、学士としての一般的な教養、理学と工学に関する基礎的知識、各学科の専門科目に関する【知識・理解】、【関心・意欲】、【思考・判断】、【態度】、【技術・表現】を修得しておくことを求めています。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009270/univ-cp.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>理工学部のディプロマ・ポリシーに基づき、社会人として必要な一般的な知識や態度を身につけ、自立協同の精神にのっとり地域や組織で適切な役割を担える能力を修得するため多くの授業を配置している。理工系の教育は、概して積み上げの色合いが強く、専門技術習得のためには基礎的な数物化系科目の修得が必須である。そのために、1 年次に高大連携の導入教育や基礎教育あるいは入学前教育や補修補講を準備している。2 年次専門科目では、数物化系科目の高度な修得や、各学科の専門分野の知識や論理的な思考の修得及び体験型（実験・実習）を重視した授業を行っている。職業観・勤労観の育成は、インターンシップの奨励・指導等を通じて実施するように編成している。基礎及び専門科目では「ものづくりを通して人づくり」を主眼とする、職業教育の充実を目指した教育課程を編成方針としている。</p> <p>また常に変わる社会状況において新たに生まれる課題や問題を解決するため、生涯を通じて継続的に学習し、自らの能力を高め続けるための方法論を学び、効率的な修学習慣を身につける。さらに、大学において身につけた知識・技術を社会において活用し、社会の一員として十分な活躍ができるように、自己表現力、プレゼンテーション、コミュニケーションの能力を身につける。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p>

<p>(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009263/univ-ap.pdf, キャンパス内 入学時配布, 入試要項)</p>
<p>(概要) 人や地球に優しい先端科学の知識や技術を修得し、理工学的基礎の理解に加え、応用分野の知識を備えた、実践的な科学者・技術者を育成します。</p> <p>1. 学部の求める人物像</p> <p>(1) 自分の夢や目標をもち、継続的な努力ができる人 (2) 柔軟な発想力をもち、積極的な取り組みができる人</p> <p>2. 高等学校等で修得が望ましい内容</p> <p>(1) 数学や理科の基礎科目を修めていること。 (2) 自分の考えを他者に伝える基本的な文章力と表現力を備えていること。</p> <p>3. 入学試験の基本方針</p> <p>教科の履修と達成度を直接測る一般選抜に加えて、人物像に見合う意欲のある多彩な人材を受け入れるために総合型選抜及び学校推薦型選抜を実施しています。</p> <p>一般選抜では各教科の基礎が身に付いていることを評価し、総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価します。</p>
<p>学部等名 総合政策学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024808/21.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>
<p>(概要) 総合政策学部は、法学・政治学・経済学・経営学・社会学など、社会科学の幅広い学問の教授研究を行い、広い視野を有するゼネラリストを養成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009287/univ-dp.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>
<p>(概要) 総合政策学部は、以下のような「知識」「技能」「姿勢」が身についていると判断したときに、学士（総合政策学）を授与します。</p> <p>【知識】 法学・政治学・経済学・経営学・社会学など社会科学の幅広い学問の知識の中核をなす原則的な知識について十分に理解していること。またその知識を応用し、社会問題の解決のための対策案を考案できること。</p> <p>【技能】</p> <p>①聴く。 社会問題の解決策を立案するために、自分より専門性の高い人材の意見を聴き、必要な情報を得る技能をもっている。</p> <p>②表現する。 自分の問題意識、解決策の思考過程、解決案を組織の人々に理解されるよう表現することができる技能を有している。</p> <p>③説明する。 自らが考案した問題解決策を組織の人々に説明し、同意をえるよう説得するコミュニケーション力を有している。</p> <p>【姿勢】 常に、社会における問題、組織の抱える問題を発見できるよう行動する。社会における多様な価値観や個人の差異を理解し、問題発見のきっかけを見逃さないよう行動する。問題解決に向けて努力を惜しまないで行動する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009270/univ-cp.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>

(概要)

総合政策学部・総合政策学科は、ディプロマ・ポリシーの達成のために、(1)教育課程の編成方針、(2)教育内容・方法、(3)学修成果の評価、の方針を以下のとおり定める。

(1) 教育課程の編成方針

- ・第1年次には、複数の視覚からの分析を行いうる基礎的知識を涵養するために一般総合科目を置く。
- ・第1年次から第2年次において、社会科学の幅広い学問に通暁した知識を得るために専門分野の基礎的内容を教授、専門教育科目に「法学概論」「政治学概論」「経済学概論」「経営学概論」「社会学概論」を置く。また、社会の問題への適用や複数の視覚をもちいる力を身に付けるための「総合政策学概論」を置き、これらを必修科目とする。
- ・第2年次から第4年次にかけて、社会科学の幅広い学問分野を実社会の問題に適用するための知識をえる専門教育科目を設置する。一例として「現代契約法」「ミクロ・マクロ経済学」「経営戦略論」「現代社会論」などである。また、日本学会の分野別参照基準にいう「基本的素養」を教授する科目を設置する。
- ・第2年次後期には、「専門基礎演習」として、「卒業研究」にとりくむための、文献調査法、社会調査、データ分析等の技術を学ぶ科目を設置する。第3年次から第4年次にかけて「卒業研究」にとりくませ、具体的な社会の問題を解決するために必要な総合政策を立案する能力を養う。

(2) 教育内容・方法

- ・「調べ、考え、議論する、そしてそれを文章にまとめる」を教育のモットーとし、教育課程におけるすべての科目に適用する。つまり、「基本的知識を獲得する目的での講義」、「自身の知識の定着をはかる授業外学習（調べ・考え）」、「多様な価値観をもった人間同士が話し合うことで考え方の優劣を知る SGD (Small Group Discussion) (議論する)」、「その結果をレポートにまとめる」といった教育方法を有機的かつ効果的に組み合わせる。

(3) 学修成果の評価

- ・知識の定着度を評価する「筆記試験」、多様な考え方を持った者同士の議論の成果を含む「レポート」、その成果をさらに自分のものとして咀嚼する「プレゼンテーション」などの実技、など科目の教育目的に応じて組み合わせて評価する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009263/univ-ap.pdf, キャンパスガイド入学時配布, 入試要項)

(概要)

1. 学部の求める人物像

主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人を求めます。

- (1) これまでの生活のなかで、価値観や意見の対立を克服した経験などをもとに、社会科学の基礎的知識を用いた問題解決策を立案する能力を身に付けたい人
- (2) 将来、企業社会、公共分野、国際社会といった実社会の問題を解決するために、多様な価値観や考え方を知り、広い視野を有するゼネラリストとして活躍したい人

2. 高等学校等で修得が望ましい内容

(1) 思考力・判断力・表現力等の能力

- ① 一定量の日本語または英語の文章を読み、筆者の考え方をくみ取ることのできる基礎的能力
- ② テーマを与えられて、自分の意見を的確に、一定の時間と分量で論理的に記述する能力

(2) 社会事象を分析・記述するための知識・技能

- ① 社会事象を分析・記述するために必要な「数学」・「簿記」の知識
- ② 現代社会に生じている課題や現代社会を支える制度についての基本的知識
- ③ 社会問題の発見のための自然科学や人文科学の基礎的知識

3. 入学試験の基本方針

求める人物像の主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度と、(1)思考力・判断力・

表現力等の能力、(2)知識・技能を総合して判定を行います。学力試験だけでなく、調査書、志望理由書(作文)などの資料、面接試験での応答などを試験種別に応じて組み合わせます。一般選抜では各教科の基礎が身に付いていることを重点的に評価し、総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価します。

学部等名 香川薬学部

教育研究上の目的

(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024808/21.pdf,
キャンパス内 入学時配布)

(概要)

香川薬学部は、薬学に関する教育プログラムに基づき、薬の科学者としての技量・学識と医療倫理観を兼備した薬剤師及び探求心を有した薬の科学者を養成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009287/univ-dp.pdf,
キャンパス内 入学時配布)

(概要)

教育理念に基づいた学修の成果として所定の単位を修得し、以下に示す能力を備えた学生に「学士(薬学)」の学位を授与する。

1. 医療人としてふさわしい豊かな人間性と使命の尊厳に関する深い認識をもち、高い倫理観と使命感を身につけている。
2. 患者や生活者を全人的、総合的に捉えて、一人ひとりに寄り添う姿勢を身につけている。
3. 自己研鑽し共に教え合いながら、自ら到達すべき目標に向かって学ぶ姿勢を身につけている。
4. 薬学的視点から課題を的確に見出し、その解決に向けて科学的探求を計画・実践する能力を身につけている。
5. 薬のスペシャリストとして化学物質と生命や環境に関する専門的知識と技能を習得し、これらを統合的に活用する能力を身につけている。
6. 先端技術に関心を持ち、専門性を活かし、倫理・法律等を遵守して、情報・科学技術を活用・可視化する能力を身につけている。
7. 薬物治療を主体的に計画・実施・評価し、医薬品の適正使用を推進する能力と、医薬品の供給、調剤、服薬指導、処方提案等の患者本位の薬学的管理を実践する能力を身につけている。
8. 患者や生活者の意思決定を支援するために、患者や生活者、医療者と良好なコミュニケーションをとり、的確かつ円滑に情報を共有・交換する能力を身につけている。
9. 患者や生活者中心の医療・福祉・公衆衛生を実践するために、関係する多職種と互いの役割を理解し、連携・協働する能力を身につけている。
10. 地域社会から国際社会にわたる広い視野に立ち、人々の健康の維持・増進、質の高い医療、公衆衛生の向上に貢献する意欲を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009270/univ-cp.pdf,
キャンパス内 入学時配布)

(概要)

到達目標に達するための教育課程

カリキュラム編成

本プログラムは6年制です。卒業までに必要な単位数は186単位以上で、以下の条件を満たす必要があります。一般総合科目 19単位以上(人文科学関係科目、社会科学関係科

目、自然科学関係科目より12単位以上。ただし、人文系、社会系、自然系はそれぞれ2単位以上を含むこと。)、体育・スポーツ科目1単位以上、外国語科目(「英語」4単位を含め)4単位以上、文理学2単位、および薬学専門教育科目167単位以上。

香川薬学部は、10項目のディプロマポリシー(DP)を実現するための教育プログラムを段階的かつ効率的に編成することにより、(1)医療人に必要な高い倫理観と使命感(DP1, 2)、(2)薬剤師に必要な専門的知識と技能(DP5)、(3)医療現場でおこる問題を発見する能力とその解決能力(DP4)、(4)能動的に行動する態度(DP3, 10)、(5)思考力・判断力・表現力等の社会生活で必要とされる能力(DP6, 7)、(6)生涯にわたって学び続ける自己研鑽力(DP3)、(7)多様な人々との協働を可能とするコミュニケーション力(DP8, 9)をもつ医療人を育成します。

学修内容・方法

カリキュラムは学年進行に伴って基本的スキルから医療従事者としての専門的スキルにレベルアップしていくよう構成されています。薬剤師として身につけるべき生命・医療倫理、チーム医療とコミュニケーション、薬剤師に関わる社会の仕組みおよび課題の発見能力・課題の解決能力を醸成するための科目は、6年間かけて修得できるようにすべての学年に教育プログラムを配置しています。4年次に講座配属を行い、講座における研究を通して、最新の知見を知る重要性だけでなく、医療現場でおこる様々な課題を解決できる能力を培います。実務実習準備教育プログラム(実務実習事前教育1及び実務実習事前教育2)を履修することにより、5年次の病院・薬局実務実習に必要な知識・技能・態度を学修します。病院・薬局実務実習では、大学で学修したことを実践することにより、医療現場で起こる様々な課題に対する解決能力をより向上させます。

学修成果の評価方法

「知識・理解」に関する科目の学修成果は、筆記試験や口頭試問、課題レポート等によって能力を点数化し評価します。「技能・意欲・思考・判断」に関する学修成果はPBL科目における制作物と到達度評価、レポート、プレゼンテーション、「卒業実習」での卒業実習報告書と発表を点数化して評価します。自己研鑽力など学生個々の能力の醸成は、学生自身がどの程度獲得し達成できているかを5段階のルーブリック表で自己評価し、その結果をみながらチューターが個別指導を行います。また、1年次から6年次までに修得した知識の到達度は、6年次の「総合薬学演習」により総括的評価を行います。

これに加えて、1～6学年の全ての必修科目について、香川薬学部の10項目のディプロマ・ポリシー(DP)へ寄与する割合(DP配分)を設定しています。各授業科目の評定時の試験の得点にDP配分を乗じて(単位数も乗じる)6年間にわたり修得全科目について積算したDP得点を算出し、これにより卒業までの総合的な学修成果(DP達成度)を測定します。(DP得点/DP累計=DP達成度)

入学者の受入れに関する方針

(公表方法: ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009263/univ-ap.pdf,
キャンパスガイド入学時配布, 入試要項)

(概要)

1. 学部の求める人物像

今日の高度に専門化が進んだ医療に携わる薬剤師には、専門職として薬及び病気についての深い知識だけではなく、患者に寄り添う豊かな人間性と高い倫理観が強く求められています。先進的なチーム医療において「薬のスペシャリスト(専門職)」として貢献でき、病気の苦しみを理解して医療にあたることのできる薬剤師を養成します。知識、技能と医療の心を身に付け、地域に密着して活躍する薬剤師をめざすため次のような人を求めます。

- (1) 意欲、探究心が旺盛で明朗な人
- (2) 医療に対して高い倫理観をもち、薬学分野で貢献したいという強い志をもつ人

2. 高等学校等で修得が望ましい内容

- (1) 幅広い知識を構築する基礎科目に加え、薬学の基盤となる理系科目を修めていること。
- (2) 文章の読解・作成等に必要な言語能力、及び表現力を身に付けていること。

<p>(3) 知識を総合的に関連づけて問題解決する能力を有すること。</p> <p>3. 入学試験の基本方針</p> <p>2 の修得が望ましい内容(1), (2), (3)の観点から総合的に判断します。一般選抜では, (1)の観点から, 各教科の基礎が身につけていることを重視します。学校推薦型選抜では (1), (2)の観点に, 総合型選抜では(2), (3)の観点に重点を置き, 高い学習意欲と明確な目的意識を評価します。</p>
--

<p>学部等名 保健福祉学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法: ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024808/21.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>保健福祉学部は, 医療・保健・福祉に関するすぐれた研究者及び専門的職業人等を養成し, 社会の要請に応えられる人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法: ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009287/univ-dp.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>人間福祉学科, 看護学科, 理学療法学科, 診療放射線学科, 臨床工学科, 口腔保健学科より構成されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年の課程を修了して, 卒業に必要な単位数を修得する。 ・生命に対し深い畏敬の念を抱き, 豊かな人間性と良識を持つ。 ・保健, 医療あるいは福祉の専門家として必要な論理的思考, 問題解決能力, 協調性, コミュニケーション能力を身につけている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法: ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009270/univ-cp.pdf, キャンパス内 入学時配布)</p>
<p>(概要)</p> <p>授業科目を一般総合科目, 専門教育科目としている。1年次は, 幅広い教養を身につけ, 医療・福祉の基礎を学び, 2年次は, 各科関連の技術を修得する。3年次, 4年次は, 臨地実習を行い理論と実践を統合させるとともに, 自ら関心がある分野を発展させ, 国家試験に向け学習する教育課程を編成している。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法: ホームページ https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00009263/univ-ap.pdf, キャンパス内 入学時配布, 入試要項)</p>
<p>(概要)</p> <p>人々の健康と福祉の向上をめざす, 質の高い, 社会に貢献できる有能な専門家(診療放射線技師, 臨床工学技士, 歯科衛生士, 理学療法士, 看護師, 保健師, 助産師, 社会福祉士, 精神保健福祉士など)を育成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学部の求める人物像 <p>高等学校等で幅広い基礎学力を身に付け, 保健・医療・福祉に興味をもち, 継続的な努力ができる人を求めます。</p> 2. 入学試験の基本方針 <p>教科の履修と達成度を直接測る一般選抜に加えて, 求める人物像に見合う意欲のある多彩な人材を受け入れるために総合型選抜及び学校推薦型選抜を実施しています。</p> <p>一般選抜では各教科の基礎が身につけていることを評価し, 総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価します。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024822/23.pdf

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	4人	－					4人
人間生活学部	－	26人	14人	9人	1人	1人	51人
音楽学部	－	5人	3人	2人	0人	0人	10人
薬学部	－	21人	10人	10人	4人	0人	45人
文学部	－	15人	1人	1人	0人	0人	17人
理工学部	－	13人	6人	3人	2人	0人	24人
総合政策学部	－	11人	3人	3人	0人	0人	17人
香川薬学部	－	15人	7人	8人	3人	0人	33人
保健福祉学部	－	43人	20人	17人	4人	1人	85人
一般総合科目	－	4人	11人	3人	0人	0人	18人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		106人					106人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.bunri-u.ac.jp/about/pub-info/edu-info/teacher/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人間生活学部	405人	204人	50.4%	1,620人	1,011人	62.4%	若干名	0人
音楽学部	30人	4人	13.3%	120人	32人	26.7%	若干名	0人
薬学部	150人	45人	30.0%	930人	388人	41.7%	若干名	0人
文学部	90人	58人	64.4%	360人	258人	71.7%	若干名	0人
理工学部	110人	76人	69.1%	440人	319人	72.5%	若干名	0人
総合政策学部	100人	57人	57.0%	400人	289人	72.3%	若干名	1人
香川薬学部	90人	42人	46.7%	540人	236人	43.7%	若干名	0人
保健福祉学部	345人	234人	67.8%	1,380人	1,100人	79.7%	若干名	0人

合計	1,320人	720人	54.5%	5,790人	3,633人	62.7%	若干名	1人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人間生活学部	323人 (100%)	9人 (2.8%)	259人 (80.2%)	55人 (17.0%)
音楽学部	12人 (100%)	1人 (8.3%)	11人 (91.7%)	0人 (0.0%)
薬学部	64人 (100%)	1人 (1.6%)	46人 (71.9%)	17人 (26.6%)
文学部	76人 (100%)	0人 (0.0%)	66人 (86.8%)	10人 (13.2%)
理工学部	96人 (100%)	10人 (10.4%)	78人 (81.3%)	8人 (8.3%)
総合政策学部	83人 (100%)	0人 (0.0%)	72人 (86.7%)	11人 (13.3%)
香川薬学部	30人 (100%)	0人 (0.0%)	22人 (73.3%)	8人 (26.7%)
保健福祉学部	248人 (100%)	6人 (2.4%)	217人 (87.5%)	25人 (10.1%)
合計	932人 (100%)	27人 (2.9%)	771人 (82.7%)	134人 (14.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>開講する全ての授業科目において、下記の内容でシラバスを作成し、本学ホームページで公表している。年間の授業の計画は、年度初めに学内システムおよび本学ホームページに掲載している。</p> <p>【作成過程】 シラバス作成要領に沿って、授業担当教員が作成している。</p> <p>【作成項目】 科目名、担当教員名、単位、科目群、必修・選択、開講期、対象年次、授業概要、到達目標、授業計画、授業形態、授業時間外学習、評価方法、教科書、参考図書、備考（オフィスアワー、実務経験、科目ナンバー）</p> <p>【作業日程】</p> <p>1月29日(月)～2月9日(金) 2024年度Webシラバスの修正・新規登録等、入力作業</p> <p>2月13日(火)～2月26日(月) 教務部長からシラバスチェック依頼、各学科におけるチェック</p> <p>2月27日(火)～3月4日(月) 学科長から教員へ修正依頼・各教員による修正と報告</p> <p>3月5日(火)～3月11日(月) 学科長による確認、チェック表と完了報告書の提出</p> <p>3月18日(月)～ 次年度時間割発表学生閲覧開始</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>年度当初に示す授業計画（シラバス）に、筆記試験や学習態度、実技等の学修成果の評価方法とそれぞれの評価割合について明示している。さらに、試験・レポート等の評価に対するフィードバックの方法も示している。</p> <p>成績評価および単位認定の基準については、学則および履修要綱に定め、入学時に配布するキャンパスガイドおよび学内システムで学生に示し、適正に評価・認定している。</p>
--

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人間生活学部	人間生活学科	124 単位	有・無	単位
	食物栄養学科	124 単位	有・無	単位
	児童学科	124 単位	有・無	単位
	メディアデザイン学科	124 単位	有・無	単位
	建築デザイン学科	124 単位	有・無	単位
	心理学科	124 単位	有・無	単位
音楽学部	音楽学科	124 単位	有・無	単位
薬学部	薬学科	186 単位	有・無	単位
文学部	日本文学科	124 単位	有・無	単位
	英語英米文化学科	124 単位	有・無	単位
	文化財学科	124 単位	有・無	単位
理工学部	機械創造工学科	124 単位	有・無	単位
	電子情報工学科	124 単位	有・無	単位
	ナノ物質工学科	124 単位	有・無	単位
総合政策学部	総合政策学科	124 単位	有・無	単位
香川薬学部	薬学科	186 単位	有・無	単位
保健福祉学部	人間福祉学科	124 単位	有・無	単位

	看護学科	127 単位	有・無	単位
	理学療法学科	124 単位	有・無	単位
	診療放射線学科	124 単位	有・無	単位
	臨床工学科	124 単位	有・無	単位
	口腔保健学科	124 単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.bunri-u.ac.jp/_files/00024938/60.pdf

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
人間生活学部	人間生活学科	670,000 円	280,000 円	336,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
	食物栄養学科	670,000 円	280,000 円	388,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費、 学科特別費
	児童学科	670,000 円	280,000 円	388,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費、 学科特別費
	メディアデザイン学科	670,000 円	280,000 円	408,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費、 学科特別費
	建築デザイン学科	670,000 円	280,000 円	408,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費、 学科特別費
	心理学科	670,000 円	280,000 円	356,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
音楽学部	音楽学科	1,110,000 円	300,000 円	706,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
薬学部	薬学科	1,120,000 円	400,000 円	786,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
文学部	日本文学科	670,000 円	280,000 円	336,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
	英語英米文化学科	670,000 円	280,000 円	336,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
	文化財学科	670,000 円	280,000 円	356,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
理工学部	機械創造工学科	920,000 円	280,000 円	446,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
	電子情報工学科	920,000 円	280,000 円	446,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
	ナノ物質工学科	920,000 円	280,000 円	446,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
総合政策学部	総合政策学科	700,000 円	280,000 円	408,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費、 学科特別費
香川薬学部	薬学科	1,120,000 円	400,000 円	786,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
保健福祉学部	人間福祉学科	670,000 円	280,000 円	356,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
	看護学科	920,000 円	280,000 円	536,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
	理学療法学科	850,000 円	280,000 円	536,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
	診療放射線学科	920,000 円	280,000 円	536,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
	臨床工学科	920,000 円	280,000 円	446,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費
	口腔保健学科	850,000 円	280,000 円	536,300 円	実習・図書費、施設費、協力費、研修部費

※その他の納付金

- ・入学手続き時のみ研修部入会金 1,000 円
- ・人間生活学部食物栄養学科、保健福祉学部看護学科・理学療法学科・診療放射線学科・臨床工学科・口腔保健学科は、臨地(臨床)実習費が別途実費負担
- ・休学する者は学費等を免除、ただし休学在籍料として 120,000 円(年間)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

1. 入学前教育

総合型選抜入試や学校推薦型選抜入試合格により、早くから本学への入学が内定している高校生を対象に、学習意欲の維持、高校レベルの学習の貫徹を目的に、一般総合科目の教科書、参考書、書籍等の配布、レポート提出等を実施し、e-ラーニング学習補助教材も導入している。この取り組みは、入学後に必要となる文章読解能力やレポート作成能力を助け、大学に入学する心の準備を促している。

2. 新入生導入教育等

平成 19(2007)年度より新入生導入教育として理事長、学長等による「文理学」を開講している。また、教育目標の達成のために、年度初めに学生に履修ガイド、要覧を配布するとともに、オリエンテーションを実施し、教育課程の編制方針、学生にとって卒業に必要な単位数、履修科目について説明を行っている。また、低年次に一般総合科目・専門導入科目の履修を取り入れた、くさび型の教育課程を編成している。

3. シラバスの充実

学生が授業科目・授業内容について、キャンパスガイド及び Web 上で公開されたシラバスにより常時確認できる体制を整えている。平成 25(2013)年度より、授業形態と授業時間外学習の欄を設け、学生に時間外学習を促すための取組を行っている。また、平成 29(2017)年からは学生からの相談に対応するため、備考欄に「オフィスアワー（学生からの相談や質問を受け付ける時刻と場所を明示）」を記載している。

4. GPA 制度の採用

平成 22(2010)年度より GPA(Grade Point Average)を完全実施し、教育のさらなる質保証に努めている。成績通知書には、その学期に履修した科目のみについて算出した「当期 f-GPA」と当該年度の「年間 f-GPA」、入学後全ての学期で履修した科目について算出した「累積 f-GPA」の 3 種類を記載する。なお、平成 23(2011)年度からは、全ての学生に「当期 f-GPA」を表記している。令和 3(2021)年度より各学科ごとに f-GPA による個別指導基準(学科・学年毎の下位 1/4GPA 値程度)を定め、成績下位の学生に対して指導・助言している。

5. クォーター制の導入

平成 26(2014)年度から一部科目においてクォーター制を導入した。本学では、科目の特性によりクォーター制とセメスター制を併用している。クォーター制では、講義が週 2 回行われるため、学修に集中ができ、講義毎の理解度を向上させることができる。また、定期試験が分散し一度に行われる試験科目が減少するため、学生は一科目への取組を強化することができる。

6. ディプロマ・サプリメント（学位証書補足資料）の発行

令和 4(2022)年度の卒業生(全学部・学科)から、ディプロマ・サプリメント(学位証書補足資料)を学科ごとに発行し、学習成果の可視化を図っている。令和 5(2023)年度からは社会人基礎力の測定を行っており、社会人基礎力育成の指導に役立てている。

7. 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

文理を問わず全ての学生にこれからのデジタル社会において必要とされる「数理・データサイエンス・AI」に関する基礎的な知識や技術を身に付けさせるため、令和 5(2023)年度から「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(リテラシーレベル)」を大学、短期大学部の全学科において、さらに理工学部と人間生活学部において、応用基礎レベルのプログラムを実施した。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

1. 組織

本学では、創立以来「自立協同」の建学精神のもと、高度の知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り文化の創造と発展に貢献する人材を育成することを目標に、一人一人が自立し、協同して社会に貢献できる人材の育成をめざしている。学生の就職支援については、学長を委員長に、各学部代表委員からなる就職支援委員会とインターンシップ推進委員会を連携軸に、各学部学科担任・チューターをはじめ、就職支援部、全学共通教育センター、教員養成対策室が連携し、全学を挙げての支援を行っている。

2. 取組みの概要

本学では特色ある各学科で取得した資格や知識を生かした就職に向けた支援を充実させるため、一般企業・公務員・教員に分けた支援を行い、全体をとおした支援は就職支援部で実施している。

また、保護者に対しては、夏季休業中を中心に全国 16 カ所で開催の保護者会で担任及び就職支援部の就職相談を実施している。

採用活動のオンライン化にいち早く対応するなど、急激に変化する就職活動に即した柔軟な取り組みを推進している。

(1) 一般企業対策支援

各種支援策を就職支援部が中心となって実施している。一人一人の学生のニーズや各学科の特質に対応するため、学科担当を決め入学時から継続したきめ細やかなサポートを行っている。この他、学生の就職先を中心に新たな企業も含めた事業所訪問・求人開拓等の支援を行っている。

また、卒業後も随時の就職相談に対応しており、卒業後 1 年間の学内就職支援システムの学外からの利用の便宜も図っている。

○キャリア推進プログラム

- ・全学部の 1 年生全員を対象にキャリアガイダンスを実施。
- ・インターンシップガイダンスによるインターンシップ参加の推進。
- ・インターンシップ推進委員会による各学科におけるインターンシップ推進。

○就職支援プログラム

- ・就職ガイダンス、独自作成の「就職活動の手引き」による学科別就職説明会を、卒業前年度の学生に対し年 3 回実施。採用活動の早期化に対応して 2 年生にも拡大して実施。
- ・就職セミナーの実施(就活サイト登録と活用、インターンシップ対策、企業研究と就職情報の収集、就職活動のマナー、自己分析、自己 PR 文の作成、SPI・筆記試験対策、論作文対策、応募書類の書き方、面接試験対策、模擬面接演習、集団討論対策、企業説明会への参加、就活直前対策、後期スタートアップ講座、2 年生対象キャリアガイダンス)
- ・就職試験の内容に対応した就職試験対策集中講座を年 2 回実施
- ・就職常識・能力の模擬試験の実施、適性検査の実施
- ・就職状況調査を年 3 回実施
- ・就活ツアー(大阪)の実施と事前説明会の実施
- ・学生と企業等との交流会の実施と事前説明会の実施
- ・個別の企業説明会の実施
- ・学内就職支援システム及び求人受付 NAVI による就職情報のインターネット提供
- ・いつでも対応する個別面談による常時相談の実施と面接・マナー・書類添削指導、カウンセリング

(2) 公務員対策支援

全学共通教育センターが「公務員試験対策講座」を開講し、筆記試験対策をはじめ、自治

体ごとの詳細な情報を提供するとともに、随時、相談に応じている。令和5年度からは、毎回の講座を香川キャンパスへライブ配信しており、香川キャンパスの学生もオンライン参加できるようになっている。また、就職支援部で公務員模擬試験の実施や各種公務員説明会の開催、公務員就職体験発表会等を行っている。

(3) 教員・保育士対策支援

全学共通教育センターが採用試験対策のための「教員・幼保養成対策講座」や教職ガイダンス・各種セミナーを開講し、筆記試験や面接、模擬授業等の指導を行うとともに、模擬試験を実施している。また、多様化する採用試験についての情報提供や個別相談、面接や場面指導、模擬授業等の個別指導を随時行っている。さらに、次年度対策として、本学OBの現任教員や保育士を招いての「パネルディスカッション」や「教員・幼保合格体験発表会・交流会」を開催している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

○保健衛生

1. 各種健康診断
2. 健康相談
3. 救急・応急処置
4. 健康の保持増進及び予防啓発
5. 健康診断書の発行
6. 各種調査・報告
7. 学研災・付帯賠償保険への加入および保険金請求

○メンタルヘルス

1. 精神疾患の相談
2. 対人関係の相談
3. 心理・性格の相談
4. 修学上の相談
5. 発達障害の相談
6. ハラスメント相談
7. 保護者からの相談
8. 学生に関する教職員の相談
9. 専門機関への紹介

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.bunri-u.ac.jp/research/>
<https://www.bunri-u.ac.jp/faculty/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F136310110264
学校名 (〇〇大学 等)	徳島文理大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人村崎学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		541人	506人	556人
内訳	第Ⅰ区分	320人	306人	
	第Ⅱ区分	135人	142人	
	第Ⅲ区分	86人	58人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				0人
合計 (年間)				556人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	—	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	—	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	0人
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	—	人	人
G P A等が下位4分の1	22人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	—	人	人
計	28人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。